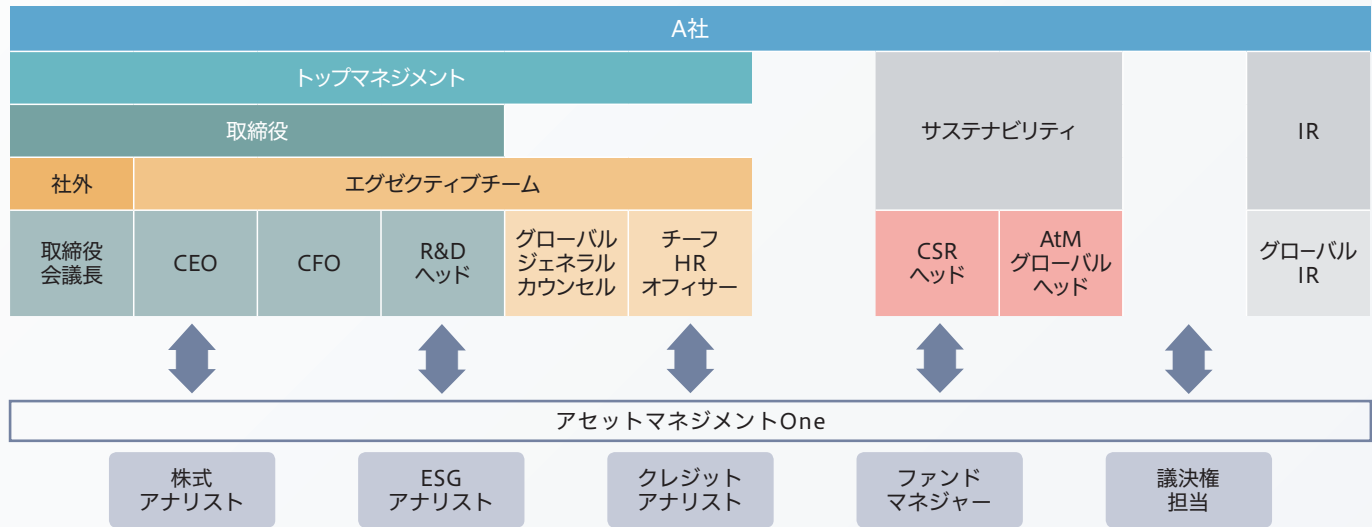


責任投資グループのエンゲージメント

運用部門連携による多面的な働きかけ

- 巨額買収に際し、企業価値向上と財務安定に向け、運用部門各グループが連携しエンゲージメントを実施
- CEOや社外取締役を含む国内外のエグゼクティブメンバーへのきめ細かいエンゲージメントを実施。当方は株式運用グループアナリスト、債券運用グループクレジットアナリスト、責任投資グループESGアナリストの三位一体で対応
- エンゲージメントの成果を議決権行使に反映させるとともに、株主提案への賛否含め当社の考え方をCEOに直接フィードバック、ガバナンス強化に向けた意見交換を実施

「多面的な働きかけ」全体像



事例紹介

● A社との面談代表事例

面談時期	テーマ	面談者(最上位)
2018年10月	臨時株主総会(買収)に関する質疑	CEO、取締役会議長
2019年7-8月	CSR/ESGマネジメント	CSRヘッド、AtMグローバルヘッド
2019年11月	買収後の資本マネジメント、R&D	CEO、CFO、R&Dヘッド
2020年6月	ガバナンス、報酬体系	CEO、グローバルGC、チーフHRO

□2018年4月、国内製薬大手A社はX社に対して、日本のM&A史上最大となる6兆円を超える金額での買収提案を行いました。

□買収金額の大きさもさることながら、暖簾/無形資産が自己資本を上回り財務体質が大きく悪化すると予想されたことから、責任投資グループは主にガバナンスの観点から、株式運用グループは事業戦略の観点から、債券運用グループは財務安定性の観点から、三位一体で協力体制を整え、対話に臨みました。

□対話においては、CEO、社外取締役を含めたトップマネジメントやキーパーソンときめ細かく面談を実施。そのエンゲージメント結果を議決権行使に反映すると同時に、行使結果についてトップマネジメントにフィードバックすることによって、更なるガバナンス改善を促しています。

評価・今後の方針等

X社買収後は、企業/財務戦略の継続対話は無論のこと、途上国での医薬品普及促進についての世界的イニシアチブ「医薬品アクセス(Access to Medicine: AtM)」への取組みなど、非財務面を含めて買収後の経営体制強化に向けた対話を積極化させています。これまで、コミットした経営施策を着実に実行していると評価していますが、課題である財務体質改善に向けた取組みはまだ必要であり、今後も継続的に対話を行ってまいります。